

新天体「エクスター」

超高温のエクスター線星

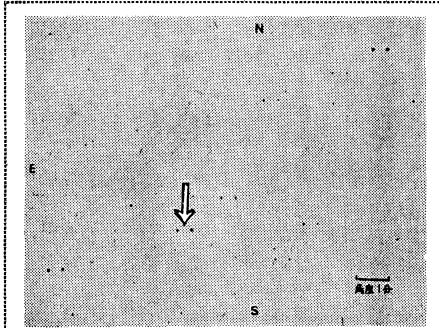
日米協力 岡山観測所で発見

東京天文台・東大宇宙航空研究所は一日午後五時、文部省「こゝろ」で「エクスター」天体の発見を報告した。この天体は、岡山観測所の二の光学望遠鏡が発見した。エクスター (EXSTAR) と命名した。エクスターの存在は、アメリカの「パロマー」天文台でも確認され、エクスター

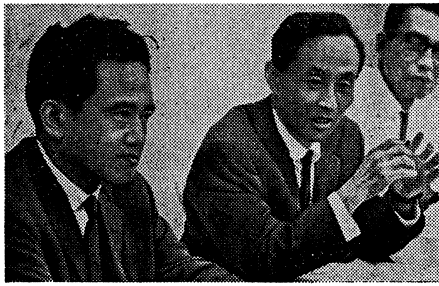
天文学の創設者であるマサチューセッツ工科大学のロビンソン教授が「エクスター」天体の発見を報告した。東京天文台では、岡山観測所の二の光学望遠鏡が発見した。エクスターの存在は、アメリカの「パロマー」天文台でも確認され、エクスター

宇宙科学に新紀元 12等星

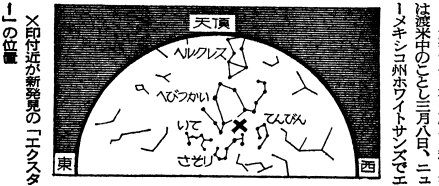
最近の天文学は光望遠鏡の観測に頼り、肉眼で見えない天体を発見する。エクスターは、肉眼で見えない天体である。エクスターは、肉眼で見えない天体である。エクスターは、肉眼で見えない天体である。



エクスターをとらえる はじめ紫外線フィルター、つぎに乾板を少しずらして青色フィルターをかけて露出したエクスター。右の像が紫外線、左が青色による画像で、一般の星は青色が強いが、エクスターは逆。



天体の新発見について発表する大沢小田両教授



エクスターは、肉眼で見えない天体である。エクスターは、肉眼で見えない天体である。エクスターは、肉眼で見えない天体である。エクスターは、肉眼で見えない天体である。

エクスターは、肉眼で見えない天体である。エクスターは、肉眼で見えない天体である。エクスターは、肉眼で見えない天体である。エクスターは、肉眼で見えない天体である。

エクスターは、肉眼で見えない天体である。エクスターは、肉眼で見えない天体である。エクスターは、肉眼で見えない天体である。エクスターは、肉眼で見えない天体である。

図1-9 X線星の光学発見を報じる記事 (読売新聞 1966年9月2日)

さそり座 X線源 Sco-X に対応する光学天体を 188cm 反射望遠鏡で紫外フィルターと青フィルターを使い位置だけ少しずらして二重露出させる方法で発見した。91cm 反射望遠鏡の光電測光と 188cm 反射望遠鏡の分光写真で X線星であることを確認した